

平成25年度協働事業提案募集による採択事業の概要 No. 3

1 事業名 : キビと薄荷による耕作放棄地の再利用化と低炭素化

2 実施団体名 : 元倉敷未来計画

3 協働担当課 : 協働推進室企画班

4 事業概要

備中特産として脚光を浴びつつあるキビと薄荷について、その作付け拡大と普及の為の活動（植え付け、収穫、商品開発、販売支援など）を行う。

5 事業の流れ等

(1) キビ栽培

- ・12軒（高梁10軒、長船2軒）の農家で栽培を行った。
- ・キビは猛暑のため不作となり、収穫量は想定を大幅に下回る180kgであった。

(2) 薄荷栽培

- ・約351平米の土地で栽培を行った。うち、総社約200平米、玉島約80平米は新規の栽培地である。
- ・薄荷の栽培は順調に行われ、8月には生葉で123kg、11月には乾燥葉で40kg等の収穫があった。

(3) 商品開発

ア キビ

キビ殻を利用し、昼寝枕（首巻き用）を試作した。

イ 薄荷

地元企業等と協働し、薄荷ジェラート、薄荷アロマキャンドル、薄荷アロマオイル等の商品開発に取り組んだ。

(4) 小冊子作成

- ・「薄荷栽培手帳」の改訂版を作成した。

6 成果・効果



キビと薄荷について、その栽培及び商品の開発研究を行うことにより、循環型社会、低炭素社会、自然共生社会等の実現を図り、通じて備中地域の地域振興に資することができた。

また、事業実施にあたっては、農家、地元企業、高校、また他の団体とのネットワークが生まれ、協働して事業を進めることができた。

7 今後の課題等

備中県民局における協働事業提案募集において、過去4回採択された事業であり、事業継続と共に、事業の発展、経済的独立など、さらなる展開が求められている。

8 実施状況

	
<p>薄荷植え付け（6月初旬）</p>	<p>薄荷刈り取り（7月下旬）</p>
	
<p>収穫した薄荷（7月下旬）</p>	<p>薄荷の選別作業（7月下旬）</p>
	
<p>協働事業結果報告プレゼンの際に持参した薄荷キャンドル</p>	<p>キビ殻を使用した枕の試作品</p>

平成25年度協働事業提案募集による採択事業の概要 No.4

- 1 事業名 : 備中の文化である綿で玉島の町を白く埋め尽くし、復活、伝承、定着をはかる
- 2 実施団体名 : 特定非営利活動法人 NPO法人備中玉島観光ガイド協会
- 3 協働担当課 : 協働推進室企画班

4 事業概要

耕作放棄地や観光コースに備中綿を植え、インターネットなどを通じ広報をすることで観光客を誘致する。また、出前講座・発表会などの開催により、綿文化の復元、伝承を行う。

5 事業の流れ等

- (1) 倉敷市玉島円通寺前の耕作放棄地に綿1000本を植えた。
- (2) 植樹祭(5月18日 50名)、鑑賞会(8月18日 80名)、収穫祭(9月22日 100名)を開催。
- (3) 備中綿写真コンテスト(応募点数60点)
- (4) 備中綿写真コンテスト表彰・備中綿発表会(10月6日 100名)
- (5) 備中玉島の綿であそぼう(1月25, 26日 198名)

その他

- ・地元小学校、高校等への出前授業を開催(計5カ所、6回)
- ・岡山商科大学附属高校と「備中綿だるま」を企画。
- ・綿繰り講座、リース・綿だるま講座を開催。
- ・東北へ綿の種20万粒、苗1万POTを支援。
- ・綿関連の作業を障害者施設に委託。
- ・綿のディスプレイの配付、ホームページなどで広報を行った。

6 成果・効果

ディスプレイの配付や小学校等への出前講座などを通し、玉島の綿の知名度が上がり、ガイドをした観光客数も年々増加している。また、県内外から問い合わせ、視察が来るようになった。

岡山商科大学附属高校と企画した備中綿だるまは、高校生が商品の展示・販売方法を競う「商い甲子園」に出品し3位入賞した。また、井原市とも情報交換を

行うなど、活動範囲を広げることができた。

学校等での出前講座やイベントを行い、綿文化の伝承に努めた。

7 今後の課題等

今後引き続き事業を継続・拡大していく上で、栽培経費や人材の確保などの問題点も見えてきた。次年度以降においてはコストダウンや商品販売等により採算が取れるよう工夫をするとともに、協力してくれる団体・個人を増やすよう取り組む。

また、玉島を訪れる観光客のさらなる増加を目指し、綿を全国にPRしていく。

8 実施状況

	
綿畑全景	地元小学校への出前授業
	
収穫祭	写真コンテスト・発表会
	
綿だるま講座	備中玉島の綿であそぼう会場の様子

平成25年度協働事業提案募集による採択事業の概要 No.5

1 事業名 : 都市住民との体験交流事業

2 実施団体名 : 矢掛町下高末棚田保全組合

3 協働担当課 : 協働推進室振興班

4 事業概要

棚田をはじめとする耕作放棄地は、担い手不足により年々増加している。

豊かな自然を守るため、棚田オーナー制度（地域外住民から会費を徴収し収穫物等をオーナーに手渡す手法）を導入するとともに、都市住民が農業体験をしながら田畑を保全する交流事業を実施して地域の活性化を図った。

5 事業の流れ等

(1) 田植え体験

ア 実施日 平成25年6月2日

イ 概要

都市住民47名が参加し、組合が管理する水田で手植えを行った。昼食時、手打ちうどんの実演も行って交流した。

(2) 稲刈り体験

ア 実施予定日 平成25年9月8日

イ 概要

実施に向けて準備したが、台風による降雨により稲穂が濡れ中止した。

(3) 野菜収穫体験

ア 実施日 平成25年11月17日

イ 概要

都市住民20名が参加し、遊休地の畑で白菜、大根、さつまいもを収穫した。

(4) お飾りづくりと餅つき体験

ア 実施日 平成25年12月15日

イ 概要

都市住民16名が参加し、正月用のお飾りづくりを行った。杵でついた餅は焙烙（ほうろく：素焼きの土鍋の一種）で焼き交流した。

(5) きのことづくり体験

ア 実施日 平成26年2月16日

イ 概要

都市住民19名が参加し、しいたけ、ひらたけの菌打ちを行った。

(6) 広報活動

事業継続のためにはオーナー数の増加が必要であり、パンフレットを印刷し、新聞折込広告を岡山市、倉敷市の18,000戸に配布した。

6 成果・効果

担い手のいない耕作地の維持は、農業の維持に留まらず、景観の保全、活動を通じたコミュニティの活性化に効果があった。

7 今後の課題等

今年度のオーナー数を40とすることを目標に活動し、最終的には24(前年比5増)となった。今後も、岡山市、倉敷市などへの効果的な広報の必要がある。

また、活動に携わる組合員も高齢化が進み、新たな組合員の確保のため組合員にとっても魅力的な活動にしていく必要がある。

8 実施状況

	
<p>田植え体験</p>	<p>稲刈り体験前の田</p>
	
<p>野菜収穫体験</p>	<p>餅つき体験</p>
	
<p>きのこづくり体験</p>	<p>棚田風景(冬)</p>

平成25年度協働事業提案募集による採択事業の概要 No.6

1 事業名 : おかやま備中暮らし支援プロジェクト

2 実施団体名 : 子ども未来・愛ネットワーク

3 協働担当課 : 協働推進室振興班

4 事業概要

岡山へ保養・避難・移住を目指す人に対し、岡山県内の生活情報等を取りまとめた冊子等の制作及び情報発信、東北等における相談会における情報提供、交流体験プログラムの実施等を行う。

5 事業の流れ等

(1) 県主催の移住相談会への参加 (7月7日、1月18日)

東京での県主催移住相談会へ備中県民局ブースとして参加し、移住経験者の立場からの相談対応を行った。(相談件数43件)

(2) 独自相談会「おかやま暮らしお話し会」の開催 (10月13日、1月11日)

首都圏や東北在住者で、岡山への移住に関心のある方を対象とした情報交換会を東京で開催した。(参加者数29組)

(3) 「おかやま暮らしホームステイ」の開催 8月2日～4日 (高梁市宇治町)

2月9日～11日 (総社市昭和地区)

首都圏の家族連れらが移住体験を行った。(合計参加者数4組10名)

(4) 「おかやま暮らしアコレ展」の開催 (1月8日～31日)

岡山での暮らしの良さ、美味しさを岡山へ移住した方が作った品々で紹介する展示会を東京で開催した。

(5) 岡山の生活情報を取りまとめた冊子の作成等おかやま暮らしの情報発信

岡山の生活情報を取りまとめた冊子「おかやまパーパー」を作成し、移住に関心のある首都圏在住者を中心に配布したほか、HPやSNSを活用し、おかやま暮らしの情報発信を行った。

6 成果・効果

移住経験者によるニーズを捉えた事業実施や、相談者やホームステイ参加者からの事後の問い合わせに対する丁寧なフォロー等により、今回のプロジェクトを通じて、岡山県への移住4組や連絡を取り合うなど関係継続15組などの成果を上げた

(2月末時点で把握できたもの)。

また、ホームステイを受け入れた地域は、地域として継続して移住受入れに取り組むこととするなど地域活性化にもつながっている。

こうした積極的でモデル的な取り組みは、新聞等マスコミにもたびたび取り上げられた。

7 今後の課題等

団体としては、引き続き行政や地域と連携して事業実施できるよう模索しているところであるが、民間支援組織として継続的に活動を行っていくためには、今後、財源確保策を検討していく必要がある。

全国的にも移住先として岡山県の人気が高まっている中、県の施策としても移住促進に取り組んでいるところであり、行政としても、引き続きこうした民間支援組織と連携した取り組みを行っていく必要がある。

8 実施状況

	
移住相談会	お話し会
	
アレコレ展	ホームステイ

平成25年度協働事業提案募集による採択事業の概要 No.7

1 事業名 : 児島ジーンズ伝承～ものづくりの歴史と技術

2 実施団体名 : 児島ジーンズストリート推進協議会

3 協働担当課 : 協働推進室振興班

4 事業概要

児島のジーンズの評価の背景にある、繊維のまち児島の歴史と技術を地域住民も含め、多くの人に伝え未来に残すために、児島ジーンズアーカイブの作成、児島ジーンズ塾の企画及び開催。

5 事業の流れ等

(1) ジーンズアーカイブの作成

ジーンズづくりの歴史と技術に関わる資料・情報を集めて、整理・保管・展示する仕組み「児島ジーンズアーカイブ」を作成。

①ジーンズ職人写真展

ア 実施日 10月5日～11月4日

イ 概要

瀬戸大橋まつりにあわせて、児島ジーンズストリート周辺でジーンズの職人技を紹介する写真等資料展示を開催

②児島ジーンズストリートWEBサイト (<http://jeans-street.com>) に技術アーカイブコーナーを設け、児島発の新しい技術について継続的に情報発信する仕組みを構築。

③出張工場 (10/12-13) でジーンズクイズ (兼アンケート) を実施。

(2) 児島ジーンズ塾の企画及び開催 (9月24日～2月26日)

児島ジーンズアーカイブを教材にした、ジーンズづくりの歴史と技術を学べる「ジーンズ塾」を企画・開催。次の世代へ児島の歴史と技術を継承するため、地域の中高生を対象にした工業用ミシンの実技講習や、小学生を対象にした漫画教材の配布 (自主事業) を実施。地域住民や観光客等一般対象については、ジーンズストリート内で職人技を見学できる工場見学プログラムを作成。

6 成果・効果

岡山県の地域資源である「ジーンズ」の背景にある「ものづくりの歴史と技術」

を伝承する仕組みを、若い世代や観光客も巻き込んで、児島の地域が一体となって構築。

また、同時期に開催した地域の連携イベントと告知印刷物を共通化することで、経費を抑えるとともに、集客の相乗効果も得られた。

7 今後の課題等

今後は、事業継続のためのビジネスモデルづくりが課題となる。

「児島ジーンズアーカイブ」を「児島ものづくりアーカイブ」に発展させるとともに、有料でも参加したい「児島ジーンズ塾」を実現化し、事業を継続していくことを計画している。

8 実施状況

	
<p>ジーンズ職人写真展</p>	<p>工場見学プログラム</p>
	
<p>児島 ★GOOD JOB作戦</p>	<p>出張工場</p>
	
<p>小学校出前講座</p>	<p>小学校出前講座</p>